

奈良言友会会報

まほろば



甘樫丘 夕景

第23号

平成30年2月発行

吃音シンポジウム2017in 奈良 報告

市田 浩志

11/5(日)に奈良言友会主催となる吃音シンポジウムin奈良をはぐくみセンターで開催しました。今回のテーマは吃音リアル〜若者の仕事・恋愛・人生と題して若者当事者をターゲットにしたものとなりました。また、奈良市社協の若者居場所づくり助成金活用させていただき、大阪人間科学大学の安井先生、またコーディネーターとして全言連事務局長の斎藤氏及び奈良にゆかりのあるパネリスト4名を迎えて行いました。当初は申込みが少なかつたため集客に不安がありましたが、ふたを開けてみれば約40名の参加者が来られ、満席の状態でのスタートとなりました。まずは、安井先生による講演を30分という短い時間ではありましたが、最新の吃音事情というテーマで分かりやすく簡潔にまとめていただきました。吃音改善法など興味深い話もありました。

第二部では各パネリストによる自己紹介及びメッセージをユーモアたっぷりのエピソードを盛り込み熱く語っていきました。笠倉氏は仕事として言語聴覚士を選んだいきさつ、丸岡さんも自身の吃音体験、宮脇さんも就職活動の事を、八木氏は自身の吃音観をテーマに会場を沸かせていただきました。その後、斎藤氏が各パネリストへの質問や掘り下げを行い若者の吃音の本音をうまく引き出してくれました。その後休憩を挟んで各パネリストを囲んで参加者が希望のグループに入り、グループでの話し合いを行いました。各グループとも盛り上がり時間が足りなかった様です。これで、閉幕となり大変良いシンポジウムとなりました。参加者からのアンケートもおおむね好評の様です。もし、今回参加できなくて、内容を観たい、聞きたい方がおられましたら、データが天羽先生のもとにありますので、おっしゃって下さい。

最後にこのシンポジウムにスタッフとして運営にあたって頂いた奈良言友会会員の方々、特に堀さん、錦戸さん、田中さん、天羽先生には大変ご尽力いただきありがとうございました。次回もまたお願いいたします。



例会報告

7月2日(日) 13:30~16:30 参加6名

担当・報告 市田浩志

第1部 様々なスピーチをしてみよう

今回は、色々な場面を想定してのスピーチを行ないました。

最初に、下に挙げた元読売ジャイアンツ長嶋茂雄選手の現役引退セレモニーでのスピーチや AKB 総選挙でのスピーチ等を紹介しました。

次に、よいスピーチの条件として、「何を話すか」話のポイントをしっかりとつこと、自信をもって話すこと、分かり易い言葉、はっきりした話し方することなどを挙げました。

最後に、参加者がそれぞれの心に残る体験にもとづいた場面を設定して、3分間程度のスピーチを行いました。葬儀での会葬者への挨拶、高校の部活での全国大会出場したときの挨拶、親子交流会でのスピーチなどいろいろです。手話を交えたスピーチもありました。

長嶋茂雄 引退セレモニーでの名スピーチ (1974年10月14日)

昭和33年、栄光の巨人軍に入団して以来、今日まで17年間、巨人、並びに長嶋茂雄のために、絶大なるご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。

皆様からご頂戴致しましたご支援、熱烈なる応援を頂きまして、今日まで私なりの野球生活を続けて参りました。今ここに、自らの体力の限界を知るに至り、引退を決意いたしました。

振り返りますれば、17年間にわたる現役生活、いろいろなことがございました。その試合を一つひとつ思い起こします時に、好調の時は皆様の激しい、大きな拍手をこの背番号3にいただき、さらに闘志を掻き立ててくれました。また不調な時、皆様のあたたかいご声援の数々に支えられまして・・・、今日まで支えられてきました。不運にも、わが巨人軍はV10を目指し、監督以下、選手が一丸となり、死力を尽くして、最後の最後までベストを尽くし闘いましたが、力及ばず10連覇の夢は破れ去りました。

私は、今日、引退をいたしますが、わが巨人軍は永久に不滅です！

今後、微力ではありますが、巨人軍の新しい歴史の発展のために、栄光ある巨人軍が明日の勝利のた

<例会の感想>

○手話を交えたスピーチが印象にのこりました。今後、手話例会でもいかなと思いました。N・A

○スピーチはそんなに経験はないけど、これからしゃべれないといけない場合があると思う。僕はあがり症的な所があるので、うまくしゃべれない。でも一言一言きっちりしゃべれば相手に気持ち伝わると思った。でもスピーチって、案外時間が経つのが遅いように思う。1分のもりでしゃべったら1分経っていなかった。 S・Y

○スピーチは自信をもってすることが大切だと思いました。短いスピーチでも原稿を作って前もって練習すると自信がきます。H・S

第1部 JDDネットワークへの加入についての話し合い

JDD ネット（日本発達障害ネットワーク）とは、発達障害関係の全国及び地方の障がい者団体や親の会、学会・研究会、職能団体を含めた幅広いネットワークです。主な対外活動では、行政への要望の提出、行政からのヒアリングでの意見表明、議員の勉強会での発表などを行っています。全言連がこのJDDネットワークへの加盟を検討していて、本年11月の全言連総会の議題に挙げるので、事前に各地言友会で話し合っほしいとの要請があり、それを受けて奈良言友会でも以下のように話し合いをもちました。

- ① 全言連が作成した資料や地域MLからの情報などをもとにして作ったレジメを使って、JDD ネット加盟の問題について説明しました。
- ② 話し合い。組織をバックにして行政に働きかけた方が、有利であるという意見が出た一方、JDDに加入しても当面は余り効果がないのではないかと意見もだされました。教育現場の実情として、行政に合理的な配慮など求めるなど行政への働きかけが増えているとの意見がありました。
- ③ アンケート（無記名）を実施
参加者に用紙を配布。JDD ネットへの加盟について①賛成 ②反対 ③どちらとも言えない、の中からひとつを選んで、その理由を書いてもらいました。
- ④ 結果。JDD ネット加盟について、①賛成 6票、 ②反対 ③どちらとも言えない、がいずれも0票でした。

<理由>

- ・吃音のある人への支援について、法的な枠組みの中でしっかりと社会的支援を行なっていくうえで、JDDに加盟した方が有利。
 - ・認知度の向上、就労支援などをすすめるには加盟した方が有利。
 - ・すぐに加盟にメリットがあるとは思われないが、今後活動していく上で、後押しになると思われる。
 - ・発達障害に悩む人のために、よい環境がつけられたらよい。吃音についても同じ。吃音と他の団体がつながるきっかけになればよい。
 - ・大きな団体に加盟することは、行政に要望していくときに、大きなメリットになると思う。
- ⑤ この話し合いの結果は、奈良言友会としての賛否を明らかにしたということではありませんが、一応の方向を示したものとして、これを全言連に伝えました。全言連では各地言友会からの報告を集約して11月3日の全言連総会の議題としました。
 - ⑥ 全言連の集約によると、各地言友会の取り組みでは、会員の関心が高まっていないことや、JDD加盟への不安もあり、賛否を出すに至らなかったところが多かったとのこと。そして、われわれ奈良言友会のように、JDD ネットへの参加に賛成の方向を出したところは少数にとどまったため、全言連総会では議決をせず、継続審議として今後も協議していくことになったとのこと。

日本吃音・流暢性障害学会 (<http://www.jssfd.org/index.html>) では、毎年夏から秋にかけての時期に臨床家や学校の先生、当事者やその家族などが全国から集まり、吃音を始めとする流暢性障害に関する研究報告や講演、シンポジウムなどを行う大会が開催されています。この大会に参加することで、吃音を含む流暢性障害に関する最新の知見を得ることができ、また様々な分野や立場の方との交流を深めることができます。今年は、8月19日～20日の二日間、長良川国際会議場(岐阜県岐阜市)で第5回大会が開催されました。この第5回大会に参加しましたので、その様子などについて報告しました。

第5回大会のテーマは「ダイバーシティ社会と吃音」です。“ダイバーシティ”とは“多様性”という意味で、現在、暮らす人々が多様であることを尊重する社会へと転換がはかられつつある中、吃音や流暢性障害の当事者の方々の生き方を尊重し、その方々が暮らしやすい社会とするためにはどうすればよいか、といったことをメインの柱として講演やシンポジウムなどが行われました。また、吃音や流暢性障害に関する最新の知見に関する研究報告なども行われました。これらの中から、私が聴講し、印象に残った発表をいくつかお話ししました。

まずは、自主シンポジウム「最新の研究知見に基づく幼児吃音支援」についてです。このシンポジウムでは、幼児吃音の疫学(集団の健康や病気に関する状況や事象の分布などを調べる研究)と、臨床家が幼児に対して治療を行う効果の最新知見を基に、幼児吃音の支援・介入の指標について議論が行われました。このシンポジウムでは、吃音が発症する年齢の平均は2歳7か月で調べた幼児の95%は4歳までに発症していた、吃音が自然治癒する場合、1年後に大きく改善する傾向がみられたが、吃音が発症する時期が遅いと吃音が持続する傾向がみられた、等の最新の知見が報告されました。また、幼児を対象とした大規模な疫学調査の進捗状況についての報告もあり、今後に期待を持たせる内容でした。

続いて、ハンセン病小説「あん」の作者であるドリアン助川氏の講演についてです。小説「あん」は、奈良県出身の河瀬直美監督により2015年に映画化されており、当日は映画「あん」の上映会も行われ、映画を見られた方の中には涙されている方もいらっしゃいました(まだ見られていない方にはお勧めです)。講演内容は、ご自身の経歴を踏まえて、なぜハンセン病をテーマに小説を書いたのかといったことから人が生きる意味とは?と多岐にわたり、色々と考えさせられました。しかし、深いテーマに反して、ユーモアを交えた軽妙な語り口のおかげで、1時間半があつという間に過ぎていきました。

これらの他にも、吃音者の生活の質(Quality of life: QOL)の調査に関する研究報告や、自主シンポジウム「言友会をダイバーシティという観点から読み解く」の内容などについてもお話ししました。

来年の大会の日程は既に決まっており、2018年7月13日～16日に広島国際会議場(広島県広島市)で開催(<https://theifa.org/index.php/ja/world-congress-home>)されます。この大会は、国際流暢性学会(IFA)や国際吃音者連盟(ISA)などの国際組織と共催する「吃音・クラタリング世界合同会議」となります。英語が分からなくても、通訳などのサービスが用意されると思いますので、お時間のある方は、参加されては如何でしょうか。

<参加者の感想>

- 前半のJDD ネットについて、何も知りませんでしたが、強い影響力をもっていることなど、知ることができました。また、話し合いの中で、奈良県の障害や吃音の事情を知ることができて、よかったです。 N・A
- 前半の、JDD ネットのお話ほとんどわかり易く、勉強になったと思います。後半の学会の報告では、最後のマインドフルネスでもリラックスすることができました。 M・S
- 前半、JDD ネットについて意見交換できたことは方向性を決めるうえで、とてもよかったです。後半、吃音・流暢性障害学会の大会でのポイントとなるようなことを、わかり易く、まとめて教えていただけ、参加した者でも、大会を振り返ることができて、ありがたかったと思います。 A・I
- 前半のJDD ネットについて、話し合いで、障がい者枠での就労、合理的配慮のことなど、奈良の教育現場での実状をお聞きできてよかった。後半、今年の吃音の学会の報告で、人の性格とコミュニケーション能力との関係についての報告が興味深かった。 H・S

10月8日(日) 午後1時半～3時「吃音をテーマにしたメディアについて」 参加 6名

担当・報告 天羽郁子

吃音のことが取り上げられている本やドラマ、映画を調べ、その作品が皆さんにどんな影響を与えているのか関心があり、例会のテーマとして取り上げました。

調べ始めると、自分が知っている作品には限界があり、インターネットの情報に頼ることになりました。インターネット上に情報が適切であるかを見極める必要があります、本の紹介は、福岡言友会のホームページで紹介されている資料を皆さんにお示しました。

「吃音・どもりのことが出てくる本の紹介」として、26冊の本が紹介されています。書名、著者、出版社だけでなく、内容や著者について説明が加えられていて分かりやすく、興味もわきます。

また、STナビ(医療・福祉・介護・リハビリテーションの情報サイト)でも、「吃音が題材の作品」が紹介されており、「志乃ちゃんは自分の名前が言えない」や「ラブソング」や「キラキラどもる子どものものがたり」など最近の作品も多く紹介されています。

例会では、1冊1冊について深めることができませでしたが、「青い鳥」や「きよしこ」などは、皆さんにご存知で、読んでおられました。私が知らなかった、「どもるどだっく」という高山なおみ著の絵本を紹介してもらうことができました。映画では、「青い鳥」「英国王のスピーチ」が、やはり観たことのある映画の代表作でした。

本年度には「ああ、荒野」という寺山修司の小説が映画化されるようです。ここでは、吃音のある健二と主人公新次がボクシングと通じて成長していくストーリーが描かれています。ぜひ、観てみたいものです。

最後に、皆さんに影響を与えたり、好きな本やドラマ、映画などで話が盛り上がりました。

<参加者の感想>

○吃音関係の本が数多くあるので、一度読んでみたいと思いました。 I・H

○吃音に関する本がけっこう沢山あるんだなと思いました。僕はあまり小説などは読まないで、知らない作品ばかりだったけど、みなさんはけっこう知ってる作品があったみたい、僕が知らなすぎるのかなと思いました。 S・Y

○話がはずんで楽しい例会だったと思います。読んでみたい作品も多かったので、順番に読んでいきたいと思います。 H・S

12月3日(日) 午後1時半～4時半 自分らしさって何 参加 9名 担当・報告 田中知樹

～絵本「ぼくのニセモノをつくるには」ヨシタケシンスケ 作～

僕は現在老人保健施設の相談員ですが、以前は現場で介護をしておりました。介護の職員は、施設の利用者様の生い立ちや生活歴などを、日々の生活の中から丁寧に聞き出し、その方のこれまで積み重ねられてこられた深い人生に触れながら、様々な思いを馳せるわけですが、その際に使用する「センター方式シート」というアセスメントシートがあります。この絵本に出会った時、僕はふと、このセンター方式シートに共通するものがあるなあと実感しました。

高齢者であれ、障害者であれ、子供であれ、全ての人が「自分らしく生きよう」とよく耳にします。吃音に関して言えば、「吃音があっても自分らしく生きよう」となります。

自分らしく生きよう、その人らしく生きることを支援する・・・では果たして自分らしさ、その人らしさって一体何なのでしょう。この絵本を通じて、「自分らしさ、その人らしさって何？」をテーマに、奈良言友会メンバー間でワークを行いました。

できること・できないことは、その中でも得意不得意や好き嫌いという分類で分けることができたり、単純にできる・できないだけではなく、色々な捉え方ができるということも知れたのではないのでしょうか。自分が思う自分らしさだけでなく、他の言友会メンバーから見たその人らしさって?など他者から意見をもら

ったり、自分ではない誰か（他者）に話して説明し言語化したり・・・そうやってワークが進んでいくうちに、自己理解と他者理解の扉が少しずつ開かれていったように思います。

吃音に関しても、「吃音という自分」ではなく、「自分という人の一部に吃音があるだけ」ということ。自分らしさの全てが吃音ではないということ。また自分らしさというと、過去に振り返って捉えてしまう傾向にあるのですが、現在の揺れ動いている自分も、そして未来の可能性を秘めた自分も、自分では気づいていないこれからの自分らしさであります。過去だけの自分だけでなく、現在とこれからの可能性を大切にしていきたい、僕自身、そのように再認識できた本日の例会でした。

<参加者の感想>

- 他の人の知らなかった面がみえたり、自分のことを客観的にみることができ、よかったです。 N・A
- 絵本は哲学的でした。大変参考になりました。吃音の心の動きにも関連しますよね。ありがとうございました。 S・K
- とても面白い絵本でした。自分のことを考えながら、自分を振り返るよい機会でした。 S・Y
- ユーモアにあふれた内容でよかったです。 I・H
- 人間の体を「ウンチ製造機」ととらえるような発想の転換から自分を捉えなおすと、吃音もディメリットばかりでなく、メリットととらえることができるのでは?と思った。 H・S
- 絵本のお話がユーモアに富み、面白かったです。実際に自分の過去を話すところがあり、楽しかったです。 M・S
- 大人も楽しめる絵本で、抵抗なく自分を見つめなおすことができたことと、そのことを例会の場でみんなが順次話していったことが、とてもよかったです。 A・I
- 本の主題について、自分のことが言えてよかったです。 M・G

第2部 吃音体験を分かち合う

担当 田中知樹

第52回NHK障害福祉賞の最優秀賞を受賞した横井秀明氏（きつおんサポートネットワーク代表理事）の受賞作「ことばをとりもどす」を横井さんの承認を得て、みんなで一緒に読み、感想を出し合い、分かち合いました。

<参加者の感想>

- 吃音に対する考え方の変化により、行動も変化する様子がわかり、興味深かった。 N・A
- 横井さんの幼少期（小学校時代）は自分とまったく同じ感じで、すごく共感できた。 S・Y
- 横井さんの文章の素晴らしさに勇気づけられました。 I・H
- 横井さんの受賞作は、吃音の問題を解決すべき課題としてとらえ、チャレンジしていくことで、道がひらかれるということが、力強く語られていると思った。 H・S
- 横井さんのお話が実際の自分と重なる部分があり、感動しながら聞けました。 M・S
- 横井英明さんの「ことばをとりもどす」という文章が吃音のかかえる課題、また吃音への向き合い方よく分かるようにまとめてあり、心に響くところがたくさんありました。 A・I

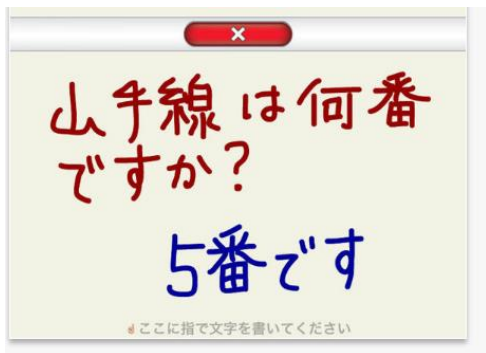
ちょっと耳寄りな話

たとえばお店で注文をする時。病院で症状を伝える時。
難発でどうしても言いたいことが伝えられない・・・。

そんな時に使えるのが「筆談」です。筆談といえば聴覚障害のある方が使うものというイメージのある方が多く、中には使うことに抵抗のある方もいるかもしれません。しかし、筆談は聴覚障害および音声言語障害者（吃音症を含む）に対する合理的配慮の一つとして条例で認められた権利であります。もしも、言いにくい言葉がある為に、食べたいものを諦めて言いやすいものを注文してしまったり、注文にあまりにも時間が掛かってしまったりするのであれば、筆談を使うというのも一つの手段でしょう。

しかし、常に筆談用のノートとペンを持ち歩くのは面倒なうえに経済的ではありません。そこでお勧めするのが、筆談アプリです。筆談アプリはiOS、Androidともに無料で十分に使えるアプリがあり、手書きで画面に文字を書き、ワンタッチで消すことが出来る為、ノートに比べて扱いやすいのが利点です。普段使っているタブレット端末やスマートフォン等に筆談アプリを入れておけば、困った時にいつでもすぐに取り出して使うことが出来ます。使いやすさの点からは鞆に入る程度の大きさのタブレット端末が推奨です。筆談アプリの例（これ以外にも無料版で、多くの同様なアプリがあります。）

1. 筆談パット (iOS 対応)



(名古屋言友会「やろまいか」2017年5月号から転載しました)

2. 筆談アプリ (試用版) (Android 対応)



※保存機能等が充実した有料版もあります

←筆談パットの使用例 上條 筆

奈良言友会の例会

日時：毎月第1日曜日 13:30~16:30

場所：奈良市はぐくみセンター（JR奈良駅西口 南へ歩3分）

奈良言友会HP <http://nara-genyukai.jimdo.com/>

奈良言友会連絡先	堀 茂 (ほり しげる。わいと年配です。) 〒636-0915 生駒郡平群町春日丘2-13-15 TEL/Fax0745-45-2857 090-9610-6393 sigeru1030@yahoo.co.jp
	青木 明大 (あおき あきひろ。わいと若いです。) akihiro.aoki.16@facebook.com URL: https://www.facebook.com/akihiro.aoki.16

奈良言友会HP <http://nara-genyukai.jimdo.com/>

奈良言友会会報誌「まほろば」編集発行 山崎貴浩